

出張報告

報告日

令和4年8月17日

会派名	柏崎の風
報告者氏名	星野 正仁、春川 敏浩、柄沢 均、山本 博文、白川 正志、田邊 優香、近藤 由香里
種別	■調査研究（□行政視察） □研修会 □要請・陳情 □各種会議
用務	札幌市民防災センター 視察
日時	令和4年7月29日（金） 9：40～11：20
場所 （会場）	札幌市民防災センター（北海道札幌市白石区南郷通6丁目北）
調査項目等	各種災害の模擬体験設備を備えた防災施設
概要	<p>平成15年に開設された体験型防災学習施設で、「自分や家族と災害体験」「こどもの防災教育」「地域や企業での訓練」など、一人一人に合わせた体験を提供。令和4年9月から令和5年3月頃まで全面休館期間とし、リニューアルが予定されている。</p>  <p>◆<u>災害バーチャル体験コーナー</u></p> <p>津波や土砂災害、都市型水害についてメカニズムや危険性を知り、災害発生の瞬間を風や座席振動の演出とともにCGを使った迫力のある立体映像で体感できるコーナー。22分間の3D映像を視聴し体感した。</p> <p>◆<u>地震体験コーナー</u></p> <p>東日本大震災などの過去に発生した地震の再現による8種類の揺れを体感できるコーナー。札幌を震源として想定した関東大震災、阪神淡路大震災、中越地震モデルの揺れを、実際に3グループに分かれてそれぞれ体感した。</p>  <p>◆<u>消火体験コーナー</u></p> <p>訓練用の消火器を使って初期消火の方法を体験し学ぶコーナー。住宅用消火器や家庭用簡易消火具などを展示している。スクリーンに映し出される天ぷら油火災を、2名ずつで水消火器を使って炎の下部を狙って消火体験をした。</p>

◆煙避難体験コーナー

煙を充満させた建物内からの避難行動を体験するコーナー。実際の火災と同様、停電を想定した暗闇の中で、非常口を探しながら3名ずつで避難体験をした。

◆暴風体験コーナー

風速10、20、30mの強い風を、3D映像を通してよりリアルに体感するコーナー。暴風による災害の危険性を知り、事前対策など身を守る方法を学ぶ。4名ずつ風速10mの風を体感した。



◆インストラクターからのまとめ

緊急時にパニックとならないよう、日頃からの「心の備え」が最も重要であるとのアドバイスを受けた。

所感等

【星野 正仁】

札幌市民防災センターは「見て・触れて・体験し・学ぶ」がコンセプトで、説明員の方の説明でよく理解ができた。同時間に子供たちが体験見学していたが、とても興味深く見学していたのが印象的だった。このような施設での経験から学ぶことは実践的で、とても良い施設と感心した。柏崎市でも体験からの防災教育が学べる施設を検討できればと思った。今後の活動に生かしていきたい。

【春川 敏浩】

防災に対する学習体験が出来る仕組みで、過去の地震体験コーナーなどができる10コーナーが施設にある。年間で2万人位の来館者がおり、大半は子供たちの学習体験の場所として活用されていた。関東大震災の震度を体験したが、揺れる時間がとても長く感じた。過去の地震体験を後世につなぐことはとても重要なことであり、同施設で体験できたことはありがたい。本市でも大きな地震を経験したが、次世代に伝授することの重要性を感じた。

【柄沢 均】

各種災害の模擬体験設備を備えた防災施設である。消防署に併設されている。夏休みであることもあり、子どもたちが大勢訪れていた。人気のある施設なのであろう。中越地震、中越沖地震を経験している本市においても、繰り返し訓練をすることは必要なことである。元消防署員であるインストラクターから非常に分かりやすく、丁寧に案内、説明をしていただいた。本市においてはさまざまな訓練の種類に応じて体験をする機会があるが、このような体験型の施設も震災のメモリアルと共に常設したい施設であると感じた。

【山本 博文】

いろいろな災害の模擬体験をしながら防火・防災に関する知識や災害が発生したときの行動を学んでもらうための施設を見学した。さまざまな体験を通じて防火・防災に対しての意識を高めることができたと考える。特に災害バーチ

ャル体験コーナーについては、津波、土砂災害、都市型水害などを3D映像によりバーチャル体験ができたので柏崎でも生かしたい。

【白川 正志】

体験型防災学習施設の意味と価値を直接体感する目的で視察した。インストラクターからのまとめでは、予測不能な災害への準備で大きな要素は「心の備え」ではないかという問いとアドバイスをいただいた。年1回の防災に関する取り組みが訓練のための訓練となってしまう、その本質が理解されないままカタチだけの実施にとどまることがないように、多様な場面で意識する重要性に改めて気づく機会となった。柏崎市においても「何のために」を明確にした施設や活動となるあり方を探究したい。

【田邊 優香】

札幌市民防災センターでは、インストラクターがおり、丁寧な説明と共に地震や火事などあらゆる災害の体験ができる場所である。現在「まちから」では災害の歴史を学べる場所として有効ではあるが、柏崎市では2度の大きな地震など災害の経験があるため、その体験を生かし、実際に体験する場所としてこのような施設を企画することができるのではないかと感じた。

【近藤 由香里】

札幌市民防災センターの強みは、1か所で複数の災害の模擬体験ができることだと思う。実際に地震、煙避難、消火器使用、強風を模擬体験することにより、災害時取るべき行動について理解を深めることができた。柏崎市の場合は防災学習・交流施設として「まちから」があるものの、災害の模擬体験ができる設備・装置は新潟工科大学などに分散している。今年の水害対応総合防災訓練のように、できるだけ災害を模擬体験できる機会を増やし、防災意識の向上を図ることが重要だと感じた。